# 教えて、Dr.！

Un docteur,
s' il vous plait faites-moi savoir!

このコーナーでは、各診療科の医師が
気になる疾患の症状・治療・予防法など
について解説いたします。

# 「集団保育の低年齢化に注意！急性中耳炎」

急性中耳炎は、約 70%のヒトが３歳までに一度はかかる頻度の高い疾患です。しかし、生後約６ヶ月までは母胎からもらった免疫力 ( 抵抗力 ) があり、急性中耳炎になることはまれです。それを過ぎれば徐々に風邪にかかるようになり、急性中耳炎も増えていきます。

## 【なぜ急性中耳炎は起こるの？】

風邪をひいた時などに鼻やのどにある細菌が、耳管という管を通って中耳に入ることで起こります。乳幼児期は、この耳管の働きが弱く、成人よりも短く、水平に近い状態 ( 約 10 度の傾斜 ) となっていて、細菌が入っていきやすくなっています ( 図参照 )。ミルクを飲ませる時に寝かせた状態で飲ませると、耳管に入っていきやすくなるため、必ず上体を起こして飲ませて下さい。また、これは成人にもいえることですが、鼻をかむ時は、強くかみすぎると鼻の細菌が耳管を通って中耳に入りやすくなるため、「ツン」と耳にこない程度に加減することが必要です。

## 【集団保育の低年齢化に注意！】

年齢を重ねるに従い、子供自身で免疫力を獲得していくようになりますが、まだ十分な免疫力を獲得していないお子さんが保育園へ通い始めると、風邪をひきやすくなり急性中耳炎にかかりやすくなります。集団保育の現場では、色々な細菌やウイルスを子供たちが持ち寄って、他の子供たちに与えたりもらいあったりしているためです。最近は、急性中耳炎が治りにくかったり、治ってもまたすぐかかるという難治性中耳炎や反復性中耳炎が問題となっています。このようなお子さんは十分な免疫力が獲得される３歳頃までは集団保育へは行かさないほうが無難ということになります。

## 【お薬が効かない細菌がふえてきている！】

細菌をやっつけるお薬として抗生物質は非常に役に立ちますが、長く使っているうちに細菌が変化してその抗生物質が効かなくなる ( 耐性を持つ ) ことが知られています。最近は、抗生物質が効かない耐性菌が増えてきていることが大きな問題となっています。

## 【どんな治療をするの？】

炎症が強くなると、痛みが強くなり高熱が出ます。中耳には膿がたまってきますので鼓膜切開が必要となります。すでに鼓膜が自壊して膿が出だしてから受診される方もいます。膿が外に出るような状態になると、炎症はひきやすくなり痛みや熱は収まってきます。膿が出ている間はできるだけお掃除に通ってください。内服薬としては、炎症の度合いに応じて抗生物質を出しますが、効果をみながら、また細菌検査の結果を参考にしながら、量を増やしたり、変更したりします。細菌検査の結果で効果のある抗生物質を使用していても、子供さんの免疫力が弱い場合は治りにくいことがあります。内服薬で治らない場合は、入院して抗生物質の点滴をしなくてはならなくなります。中耳炎の原因は鼻やのどの炎症ですので、こちらの治療も大切です。

こちらが良くならないと、急性中耳炎が落ち着いてきても、中耳に滲出液がたまる滲出性中耳炎に移行する場合があります。家庭でも、よく鼻をかんだり、吸ってあげたりすることが大切です。




耳管は鼓膜の内側の部屋 ( 中耳 ) と鼻の奥 ( のどの天井 ) との間をつないでいる管で、中耳の換気を行なっています。小児の耳管は成人より短く、水平に近いために細菌が鼻の奥から中耳に入りやすくなっています。成長に従い耳管は下の方に伸びて、成人になると図のように長くなり、約 45 度の傾斜を持つようになり、細菌は中耳に入りにくくなります。

耳鼻咽喉科部長　西山 正司

昭和 60 年卒業。専門領域は耳鼻咽喉科全般。日本耳鼻咽喉科学会専門医。※当院は安芸市以東で唯一入院可能な診療施設として、当科が重要な役割を担っています。